

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館は、東京都とともに、オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げる「Tokyo Tokyo FESTIVAL」を展開しています。



東京都現代美術館

マーク・マンダース —マーク・マンダースの不在

2021年3月20日（土）—6月20日（日）

触れると崩れそうな彫像、いつどこで作られたのか判然としないオブジェ、
人の立ち去った気配が残るスタジオ、暗く長い廊下、…
静謐と不穏が混交する、マーク・マンダースの世界へようこそ

東京都現代美術館では、現代のアートシーンに独自の位置を占める作家、マーク・マンダースの、国内美術館では初となる個展を開催します。

マンダースは、1968年オランダのフォルケル生まれ。現在はベルギーのロンセにスタジオを構えています。1986年、自伝執筆の試みを契機に得たと言う「建物としてのセルフ・ポートレート」という構想に沿って、以降30年以上にわたって一貫した制作を続けています。その構想とは、自身が架空の芸術家として名付けた、「マーク・マンダース」という人物の自画像を「建物」の枠組みを用いて構築するというもの。その建物の部屋に置くための彫刻やオブジェを次々と生み出しインスタレーションとして展開することで、作品の配置全体によって人の像を構築するという、きわめて大きな、そしてユニークな枠組みをもつ世界を展開しています。この虚構的な枠組みをベースとして類のないビジョンを示す独創的な作品世界は、彫刻の概念を掘り下げる個々の作品の質とあいまって、世界的に高い評価を受けてきました。本展は、作家本人の構想により、展示の全体を一つの作品＝「建物」のインスタレーションとして構成するものです。

個々の作品は、過去の美術史や私的な記憶に基づくイメージ、彫像や言葉、家具など様々なオブジェの組み合わせからなり、見る者に複雑な感情や時間感覚、思索と内省の機会を与えます。これらは独立した作品として十分に魅力的ですが、この大きな枠組においてみれば、また新たな表情で私たちを捉えるでしょう。作品はすべてこの架空の「建物」の一部をなすものとして現れ、作家であるマンダース本人と架空の芸術家マンダースの自画像とが混交しながら消失・生起し、見る者を虚実の空間へと誘います。一方、個々の作品には互換性があり、それぞれは単語のように部屋や構成に従って置き換えることが可能と言います。それによって、この想像の「建物」全体は、いわば一つの自動的な装置のように不断に改変され、更新されていくことになるのです。タイトルにある「不在（Absence）」は、インスタレーションに見られる時間が凍結したような感覚や静寂、既に立ち去った人の痕跡、作家本人と架空の芸術家との間で明滅する主体など、マンダース作品全体の鍵語として複数の意味を担うものですが、それはまたこの「建物」が作家の不在においても作品として自律的に存在し続けるものの謂いでもあるでしょう。マンダースの世界は、その中に入る私たちを魅了しつつ、芸術の意味について、想像力や人の生の経験と時間について、あらためて考えることを促すのです。

今回の個展は、このような独特な構造を持つマーク・マンダースの作品を十分に堪能できるきわめて貴重な機会です。ぜひ感覚を研ぎ澄まして、じっくりとその世界に触れていただければ幸いです。

展覧会のみどころ

ー 緻密に作られた作品群ー「凍結した瞬間」

マンダースの作品一つ一つは、私的な記憶や生活、複数の時代や地域の美術史など様々な要素を含んでいます。風化したように見える今にも崩れそうな脆い質感や、それとは逆に今作られたばかりのような粘土の艶、複数のパーツの緊張感にみちた思いがけない配置と違和感のあるスケール…。計算され、緻密に作られた作品からは、静謐さと不穏さの混交とともに、まるで、あるひとつの瞬間ですべてが停止しているような、時間の流れを失ったような感覚が引き起こされます。「凍結した瞬間」と作家が呼ぶその世界は、一方で朽ちることのない不変への憧憬をも呼び起こし、見る者に強い印象を残します。

ー マンダースの制作の中心、謎めいたインスタレーション

マンダースの個々の作品は独立していると同時に、「マーク・マンダース」という架空の作家の自画像として構想される「建物」に繋がっています。作品を見る私たちは、今ここで実際に作品を前にしながら、もう一方ではこの想像の部屋の中にも居ることになるでしょう…。この虚と実の交錯する空間こそ、マンダース作品の魅力の一つ。作家は2019年3月から本展の構想を温めており、今回、当館の1フロア全体（1000㎡）を一つの作品として構築します。マンダースの制作においてインスタレーションはその中心をなす仕事。その場に立つことで得られる、彼の作品でなければ知ることのできない世界を存分に味わってください。

ー ヴェネツィア・ビエンナーレでも展示された代表作を初公開

本展で展示される作品には、近年のマンダースの重要な個展では必ず出品されてきた代表作が含まれます。中でも《夜の庭の光景》、《マインド・スタディ》は、それぞれベルギー、オランダの美術館から借用予定の作品で、本邦初公開となるマンダースの代表作。作家が「大好きな作品」だと語る、部屋のインスタレーションも展示する予定です。

なお、金沢21世紀美術館でのミヒャエル・ボレマンスとの2人展（2020年9月19日ー2021年2月28日）での両者の対話を思わせる展示が印象に残っている方には、その作品の見え方の違いもぜひ味わっていただきたいと思います。本展では展示の仕方が異なるため、特に2人展を御覧になった方には、マンダースの作品の魅力や意味を多面的に知ることのできる稀有な機会となるはずです。



1 マーク・マンダース スタジオ風景

作家プロフィール

マーク・マンダース Mark Manders

1968 年、フォルケル（オランダ）生まれ。現在、ベルギーのロンセを拠点に活動。

1988 年から 1992 年までアーネム市芸術大学でデザインを学ぶ。

1986 年より「建物による自画像」と称した独自のコンセプトを展開。その想像の部屋に置かれる彫刻やオブジェを制作し、一連のインスタレーションとして発表している。また、1998 年にはロジャー・ヴィレムスらとともに出版社「ローマ・パブリケーションズ」の設立に関わり、自身のアーティストブックや展覧会カタログをはじめ、他のアーティストの書籍も多く手掛ける。作家の代表作である架空の新聞もこの出版社で制作されている。展覧会としては、これまで、サンパウロ・ビエンナーレ（1998 年）、ドクメンタ 11（2002 年）、ヴェネツィア・ビエンナーレ（2011 年）など多くの国際展に参加。個展として、2008 年から 2009 年にわたるヨーロッパ巡回展、2011 年のアメリカ巡回展など多数。2020 年にはオランダのボンネファンテン美術館で大規模な個展が開催。近年は、パブリック・アート・ファンド・プログラム（2019 年、セントラル・パーク、ニューヨーク、アメリカ）、ローキンスクエア（2017 年、アムステルダム、オランダ）で大規模な屋外彫刻を手掛けている。日本での主な展示として《東京 ニュースペーパー》を含む「テリトリー オランダの現代美術」オペラシティ・アートギャラリー（2000 年、東京）、「あいちトリエンナーレ」（2016 年、愛知）、「ミヒヤエル・ボレマンス マーク・マンダース ダブル・サイレンス」金沢 21 世紀美術館（2020 年、石川）がある。



2

Photo: Cedric Verhelst

展覧会概要

会期	2021 年 3 月 20 日（土）－ 6 月 20 日（日）
休館日	月曜日（5 月 3 日は開館）、5 月 6 日
開館時間	10:00－18:00（展示室入場は閉館の 30 分前まで）
観覧料	一般 1,500 円 / 大学生・専門学校生・65 歳以上 1,000 円 / 中高生 600 円 / 小学生以下無料
会場	東京都現代美術館 企画展示室 3F
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
助成	オランダ王国大使館 ほか
企画	事業企画課 事業係 鎮西芳美

展覧会カタログ

インスタレーションビュー、作家によるテキスト等を含む、国内初のモノグラフです。
2021 年 4 月末に刊行予定。

同時開催

- 「ライゾマティクス_マルチプレックス」（企画展）
- 「MOT コレクション 第 3 期 コレクションを巻き戻す」（コレクション展）
- 「Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021 受賞記念展」

広報用画像



3 マーク・マンダース《椅子の上の乾いた像》2011-15 年
東京都現代美術館蔵
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp, Tanya Bonakdar Gallery,
New York and Gallery Koyanagi, Tokyo



4 マーク・マンダース《未焼成の土の頭部》
2011-14 年
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp & Tanya
Bonakdar Gallery, New York/Los Angeles
Photo: Genevieve Hanson



5 マーク・マンダース《マインド・スタディ》2010-11 年 ポンネファンテン美術館蔵
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp Photo: Peter Cox / Bonnefanten



6 マーク・マンダース《狐 / 鼠 / ベルト》1992-93 年
 Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp, Tanya Bonakdar
 Gallery, New York and Gallery Koyanagi, Tokyo



7 マーク・マンダース《4 つの黄色い縦のコンポジション》
 2017-19 年
 Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp, Tanya Bonakdar Gallery,
 New York and Gallery Koyanagi, Tokyo
 Photo: Maris Hutchinson



8 マーク・マンダース
 《黄色と青のコンポジション》2014-18 年
 Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp
 Photo: Peter Cox



9 マーク・マンダース《舞台のアンドロイド (88%に縮小)》2002-14 年
 Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp Photo: Peter Cox

画像請求書

広報用図版として 9 点をご用意しております。掲載ご希望の方はお手数ですが本請求書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご連絡ください。なお、写真の使用に際し、**キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ずご表記ください。作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。**本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正原稿をお送りいただき、掲載後には、掲載誌（紙）、HP リンク、DVD、CD 等を広報班宛てにお送りください。

媒体名：

発売・放送予定日：

種 別： T V ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他

御社名：

ご担当者名：

E メールアドレス：

ご住所：

T E L：

F A X：

ご希望の図版番号に印をお付けください。

☐ 1 マーク・マンダース スタジオ風景

☐ 2 マーク・マンダース Photo: Cedric Verhelst

☐ 3 マーク・マンダース 《椅子の上の乾いた像》2011-15 年 東京都現代美術館蔵
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp, Tanya Bonakdar Gallery, New York and Gallery Koyanagi, Tokyo

☐ 4 マーク・マンダース 《未焼成の土の頭部》2011-14 年
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp & Tanya Bonakdar Gallery, New York/Los Angeles
Photo: Genevieve Hanson

☐ 5 マーク・マンダース 《マインド・スタディ》2010-11 年 ボンネファンテン美術館蔵
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp Photo: Peter Cox / Bonnefanten

☐ 6 マーク・マンダース 《狐 / 鼠 / ベルト》1992-93 年
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp, Tanya Bonakdar Gallery, New York and Gallery Koyanagi, Tokyo

☐ 7 マーク・マンダース 《4 つの黄色い縦のコンポジション》2017-19 年
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp, Tanya Bonakdar Gallery, New York and Gallery Koyanagi, Tokyo
Photo: Maris Hutchinson

☐ 8 マーク・マンダース 《黄色と青のコンポジション》2014-18 年
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp Photo: Peter Cox

☐ 9 マーク・マンダース 《舞台のアンドロイド (88%に縮小)》2002-14 年
Courtesy: Zeno X Gallery, Antwerp Photo: Peter Cox